

# 奨励賞・U40 建築賞



設計担当者

## 鳥野良子

鳥野建築設計室、京都府建築士会

一戸建ての住宅 / 岐阜県高山市

# 丹生川の古民家

構造 | 木造伝統工法

階数 | 地上1階

敷地面積 | 2,361.00㎡

建築面積 | 176.83㎡

延べ面積 | 151.47㎡

竣工 | 平成30年10月15日



1



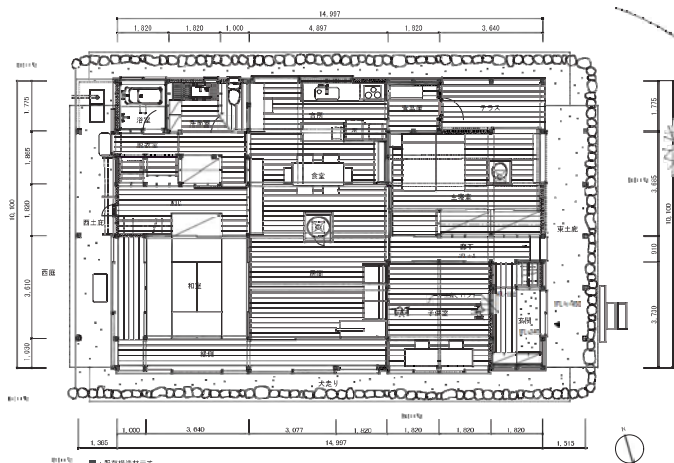
2



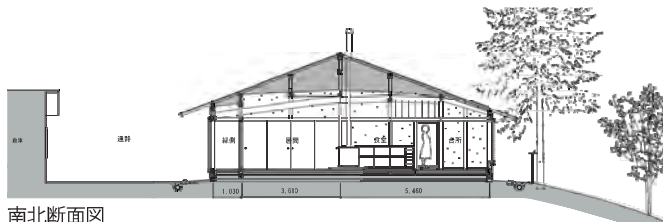
3



4



1階平面図



南北断面図

- 1 中廊下を上げると、開放的なLDK空間が広がる。南北に続く小屋梁のよう、天井はほのかに曲線を描いている
- 2 開口部の多い家の南西部は、防寒のため外部から直に居室とせす縁側を回している。居間南の窓は二本引きで障子に合わせて大きく開く
- 3 居間より廊下・主寝室側を見る。開口部には引き込みの襖を仕込み、冬場暖房エリアを調整できるようにしている
- 4 主寝室と廊下間の壁は新設。大梁が貫く

## 選評

飛騨高山の盆地の東の端にこの古民家がある。大部分が明治期に建てられた古民家で、長らく放置されたことにより、積雪のため北屋根の一部が崩落していたという。家具工房を営む家族のための住宅として再生改修されており、古い木造の軸組みを残して全面的につくり直されている。外装は、構造材のさらなる劣化を防ぐため、大壁に変更し杉荒板南京下見板張としているが、内装は木組みを活かした空間づくりを行っている。

改修は、家具職人の主人とその家族も参加しての作業を行っている。建具や造り付け家具は主人の家具工房製で、特に縁側の木製建具は幅広の横引き戸で、外観のプロポーションを整え、南北に抜けるインテリアの空間づくりに大きく貢献している。

平面計画は居間と食堂を中心に、東側に主寝室と子ども室、西側に和室と洗面・浴室という構成で、各部屋は建具を開放することにより、居間を中心に低いプロポーションで空間が

水平に広がっていく。中心の居間にはデザインの良い薪ストーブが置かれ、ほとんどの場合このストーブ一台で家全体の暖がとれるという。また、この居間・食堂は南北に抜けるスペースでもあり、北側が谷になっている河岸段丘の上端に位置するこの家を夏場は涼風が吹き抜ける。

持続可能な生活を形にしたいという建築主の強い意志を反映した、実に生活心地の良さそうな住宅である。

(菅 順二)